

20250504 レムナント教会 1 部

イエス様を信じる絶対理由(ルカ 14:15-24)

20250504 レムナント教会 1 部

イエス様を信じる絶対理由(ルカ 14:15-24)

結局、信者の信仰の色がどんなものなのかによって、その信者の人生はその通りに展開されることになります。その信者の信仰の色が適當なものであれば、その人の人生も適當なものになるしかありません。また、信仰の色が条件付きの色であれば、いつも条件によって左右される、そのような人生を歩むようになるでしょう。さまざまな信仰の色があります。なので、信者にとって信仰の色がどんなものなのか、どんな色なのかということは何よりも大事なテーマになります。今日、このメッセージを通して、信者の信仰の色はどんなものであるべきなのか、その前に私たちに修正すべき色はどんなもののかなどを確認していきたいと思います。その前に、まず、信仰の色の中でいちばん望ましくない色、黒っぽい色があります。それが不信仰です。不信仰についてまずチェックしていきたいなと願います。

1. 人々がイエス様を信じない不信仰の理由。

今日の聖書のお話がちょうどそのようなお話ですが、まず第一に、人々がイエス様を信じない不信仰の理由があります。さまざまな理由があります。

1) 選民

イスラエルの場合は、自分たちは神様に選ばれたものだ、選民であると。そういう選民思想を持っていたので、だからイエス様を信じる理由などはありませんと思っていました。

2) 律法

それにプラス、異邦人にはない、ユダヤ人だけに許されていた律法というものがあります。私たちはあなたがたにはない律法があるので、律法を守ることで十分であり、イエス様を信じる理由などはありませんと威張っていました。それがイスラエルの人々がイエス様を信じない理由なのです。多くの人が人間的に互いに比較し合って、私はあなたにはない良い条件があるんだ。良い条件に恵まれているよ。私はあなたにはない優れたものを持っているから。それが目に見えるものもあるし、目に見えないものもありますが、とにかく私はあなたとは違うので、あなたにはイエスが必要かもしれませんが、私には必要ありませんという理由を取り上げる人も少なくありません。でも、クリスチャンの私たちちは本当にそれがイエス様を断る理由になれるものなのか、問い合わせないといけません。

3) 宗教

それから、イスラエルの人たちは、自分たちにはユダヤ教というしっかりとした宗教があると。また、多くの人が、私はもう既にとっくに宗教を持っているから、もう一つのイエス様を信じるそのキリスト教という宗教は私にはいりませんということで断る人も少なくありません。イエス様を信じることがキリスト教という宗教に介入するようなことだと思っているので、すでに宗教を持っているから私にはいりませんよということが断る理由になる場合もあります。

4) 規範(ルール)

また、ユダヤ人と同じように律法があるから、律法に従って守ればいいではないかという感覚で、世の中の人々は私たちにはさまざまなルールがあるし、法律があるし、決まり事などがしっかりとあるので、それを守つていけばいいのではないか。それを守ることがまず先ではないのか、そのルールやさまざまな法律、決まり事などがこだわることであって、イエス様を信じることは後々のことですよと、イエス様を信じない理由をそういったものを取り上げて断る理由にするという人も少なくありません。

5) 良心、常識、道徳

また、ほとんどの人が、人間には良心というものがあるではないか。良心に従うべきではないのか。常識というものがあるので、この人間の世界、社会生活をしていくためには、常識というものがあるので、常識に従つて歩いていくべきではないのか。道徳、倫理のようなものが私たちにはあるので、それに従つて歩んでいくということで変わるものではないのか。より良い人間に、より良い人生になれるのではないかということで、イエス様を断る理由にします。私たちにはそういったものがあるのではないか、それに従つことが先ではないのかというふうに言いながら断る人が少なくありません。

6) 教育、科学、制度

また、この世の中では、私たちは人々を教育する力があるんだと、教育によって人を整えて人が変わるので、それをしっかりとやればいいのではないか。イエス様を信じるまでいかなくてもいいのではないか。科学は今までどんどん進歩てきて、これからも進化を遂げていくはずなんだ。それによってこの世界は変わるはずなので、イエス様を信じなくてもいいのではないか。また、人々のためのさまざまな制度などを設けていて、それもこれからどんどん整備されていくはずなんだ。福祉制度があるから大丈夫ではないか。また、足りないところがあれば、その制度をより徹底的に細かく整備していくことが希望ではないのか。ということで、イエス様を信じることを断る人が少なくありません。さまざまな理由があります。もっともな理由だと思います。しかし、今日礼拝を捧げている私たち、特にレムナントの皆さん、こういった理由が一理ある内容のように聞こえますが、本当にイエス様を断つてもいい理由になれるものなのでしょうか。これにしっかりと答えを出していかないと、いくら一生懸命勉強して皆さんが望んでるところに進んでいったとしても、そこに神様の祝福と答えは期待できません。今日の聖書を見ますと、だれかが大きな宴会を用意して人々を招待しました。これは神様が天国のパーティーを開いて、イエス・キリストを通して、イエス・キリストご自身が、神の国なのでそこに来なさいよ。すべて疲れて重荷を負っている者は、私のところに来なさい。ここに神の国があり、幸せがあり、天の御国がここにあるんだと招待するという意味なのです。それでわざわざだれかにいろいろ声を掛けて招待して、時刻、時間になって「もう用意ができまし。おいでください。来てください」と声をかけたら、さまざまな理由を取り上げて、もっともな理由を取り上げて断る場面なのです。

7) 煙、牛、結婚-生活優先

煙を買ったので、煙を耕して試さないといけないからいけません。今このまま煙を買って放っておきますと、穀物をここで栽培するのに支障が起こるかもしれないですかと。もっともな理由に聞こえます。それから、ある人は牛を買いました。牛にちゃんと被せるものを被せて用意しないと牛を買った意味がないので。それももっともな話です。嘘ではありません。ある人は、私は結婚したので、今はちょっと勘弁してくださいと。それも最もな理由なのです。しかし、それを聞いていたホストの招いた方は怒りを露わにし、町に出て、本来、普通に人間的に考えたときには招待されるべきではない、そういう貧しい人、病気の人、阻害されてる人、障害の人等々、とにかく無条件、みな連れてきなさいと。それで、その通りにしもべがやりました。しかし、まだ席が空いて

ますよと。そうか。町中の裏道まで行って、とにかくだれでもいいから連れてきなさいと。実は神様が私たちを天の御国に招かれまして、救いの祝福を与えられたのは、そういったやり方だったのです。招かれる、招待される資格など1ミリもない者なのに、恵みによって招かれて救われた者なのです。そのようにしながらいっぱいになったときに、もしもいちばん先に招待したにもかかわらず断っていた、さまざまな理由を取り上げて断っていた人々が来た場合には、絶対に入れてはいけないと、そこまでおっしゃいました。つまり、彼らは自分なりに、生きるための理由なのです。生活優先なのです。普通に考えると、それがもっともな常識なのです。しかし、イエス様は怒りを露わにして、それは私の招待を断る理由などにはなりませんと。ここに書いてはありませんけれども、裏返しますと、もっともな理由、ファクトかもしれませんのが、私たちの基準はそれが事実なのかファクトなのか、あるいはもっともなのかではありません。イエス様を断る理由などは存在しません。断る理由がいくら常識で、いくらもっともな理由であっても、すべてが暗闇のしわざであり、悪魔、悪霊のしわざなのです。だからイエス様は怒りを露わにしました。みなそれなりに理由を抱えて理由を取り上げているのです。でも、聖書が私たちに言いたいのは、それが理由になれるものなののかと。あなたがたは本当のことがまだわかっていないので騙されているのだよと。偽りの父と言われているものが、目に見えないからもっともなお話をしますと、もっともな理由を取り上げると皆が倒れてしまいます。それが悪魔のやり方なのです。人々がイエス様を信じないさまざまな不信仰の理由などがあります。問題なのは、今イエス様を信じますと告白している礼拝に来ているクリスチャンでも、そういう話を聞きますと一緒に感動します。一緒に振り回されるのです。まだ自分の中に信仰の理由が整理されていないからです。その状態では、自分の問題が解決できないどころか、解決できないのはもちろんあって、ほかの人にいのちの福音が伝えられる時刻表はなかなかやってこないです。それは伝道ができないというだけの話ではありません。総合的にそのようになった場合には、その人の人生そのものが、神の答えとは程遠い道を歩いているということになるわけです。

もう一度確認しましょう。私たちにも「そうかな?かもしれません」という思いがあるかもしれませんのが、本当に人々がイエス様を断る理由、信仰を断る理由、それが理由になれるものなのか、それをチェックして考えないといけません。信者の中でも、生きることが精一杯で、あるいは生きることが忙しいので、生きることにいろいろ奮闘しているからという理由を取り上げて、礼拝や信仰などは後々にしてしまう場合があるのです。教会には来ているけれども、状態は、イエス様の招待を断る人と同じ状態なのです。神の恵みによってイエス様を信じて死んだ靈が生かされているかもしれませんのが、状態は死んだ状態と同じ状態なのです。何も期待できません。よくよく考えてチェックしましょう。

それから、イエス様を信じると言いながらイエス様に従っていた人々の信仰の理由、信じる理由も考えないといけません。不信仰の理由も取り上げてチェックしないといけないのですが、だからといって、信じるからそれでオッケーなのかと言いますと、そう言い切れないのです。

2. 人々がイエス様を信じる多くの理由

なので、2番目、今度は、人々がイエス様を信じるさまざまな多くの理由があります。その理由をチェックしていきましょう。

1) 病気

いちばん多い理由と言いますと、たぶん具合が悪いから、病気というものではないでしょうか。病気によって自分の肉体の限界を見るようになり、とにかくこの病気から解放されて健康になって、残りの生涯をより健康な状態で希望あるものとして生きていきたいという想いで、そのときまでは

見向きもしていなかった人が、病気によって病気が治りたいという思いで教会に通い、イエス様を信じるその理由になる人がほとんどなのです。

2) 経済

それから、経済的に元々困窮していて、あるいはうまくいっていたのに、何かのことで突然経済的に困るようになった、経済的に非常に厳しい状況になったということで、とにかくこの経済を立て直して残りの生涯をどうにかスムーズに行きたいという思いでイエス様を信じる人も少なくありません。それが信仰の理由になるのです。

3) 距離

あるいは、性格の問題なのかわかりませんけれども、人間関係につまずいて、家族から、あるいは友人から、周りから距離されて、場合によっては捨てられた場合、見捨てられた場合もあります。そういういろいろな状況、経験などを通じて孤独を感じ、寂しさのあまりに、人間からそれが得られないで、イエス様を信じることでその寂しさをどうにか埋めようということでイエス様を信じる人も少なくないでしょう。それでどうにかそれを埋められたというように感じる場合もあります。いじめられた人が人間には期待できないから、たぶん自分の性格なのか、いじめる相手が悪いのかはわかりませんけれども、自分ではどうにもならないので、それで目に見えないけれども、無条件、人を受け入れると言わわれている神様の方に行こうじゃないかということで信じる人もいます。

4) 失敗

それから、自分のせいで犯したミスなのか、他人のせいなのか、だれかのせいなのか、何かのせいなのかはわかりませんけれども、願ってもない過ちを犯して、大きな失敗をしてしまった場合に、反省の思いを込めて、その失敗から抜け出して新たに人生を歩きたいという思いを持って、その失敗が理由になってイエス様を信じる人も少なくありません。

5) 優れた宗教

また、ある人は、いろいろな宗教を転々としながら、その中で自分で判断したときに、キリスト教がいちばん優れているなど判断して、宗教の中ではより優れた宗教だという判断を元にしてキリスト教に入っていく、そういう人もいます。特に私の今までの経験では、他の国よりは日本人の方にこういう傾向が多いのではないかと思います。日本人は、自分で本を読みながら、聖書を読みながら、自分で判断して、イエスは他の宗教のだれよりはすごいな、信頼できるんだなと思って信じようか。今までの地球上のだれよりも信頼できる、罪人のために自分を犠牲にするというその救いのあがないの意味よりは、そこまでできる人っているかということで、信頼という意味をもってイエス様を信じる、それが理由になる場合もあります。

6) クリスチャンホーム

また、レムナントなどの場合は、生まれてみたらクリスチャンホームです。親が教会に通って自然に良いか悪いか、好きか嫌いか関係なく（小さい時には親に抵抗する力など、まだ備わっていないので）連れられて教会に行くようになり、それでいいなと思って続ける人もいるし、途中で目覚めて思春期を迎えて、自我が強くなった頃にもう嫌だということで教会から離れる場合もあるし、とにかくクリスチャンホームから生まれたので、なんとなく信じるという理由もあります。

7) 問題解決

でも、全部総合して申し上げますと、一言で縮めて申し上げますと、問題解決ということにフォー

カス合させて、それを信仰の理由にして信仰に入る人がほとんどではないでしょうか。別に悪いとは言いません。神様はそういったきっかけを許されて、それを旅程にして、本物の信仰に目覚めるようにガイドして導かれる方なので、それはプロセスの一つなのです。しかし、問題は、そのような信仰の理由をずっと持ち続けることが問題です。」

皆さん、クリスチャンとして考えてみてください。いま短く取り上げましたけれども、信じる理由、信仰の理由、それが本当にイエス様を信じる理由に当てはまるものなのでしょうか。ここで今日の聖書を中心にして、招待を断ったことに対してこんなに怒りを露わにした、そこには理由があるわけです。

3. イエス様を信じるべき一つの理由

3番目です。イエス様を信じるべき理由は一つしかありません。一つの理由なのです。言葉をえますと、クリスチャンが持っているさまざまな理由、それは消されないといけません。理由は一つしかないといえば、いつそれがわかるかと言いますと、神のみことば、福音のみことばが届いて、それが光なので、そのみことばによって、今まで囚われていた暗闇が碎かれたときに、やっと気づくようになります。

1) 真の自分の姿に気づいて

ああ、なるほど。自分はこんな人間で、こんな存在なんだということに気づいたときに、みことばによって、福音の光のいのちのみことばによって。その他の何かで自分はこんな人間かと悟ったのは、これとは全く関係ない、悟りではありません。みことばが光としてその人に照らされたときに初めて、今まで当たり前だと思っていたそのものが崩れます。目をくらませるものによって、自分も気づいていないでしょけれども、何かに包まれているわけです。それが、みことばが入ることで、それが碎かれることで初めて気づくようになります。私が病気になって大変な痛みを感じていることは間違いないけれども、病気の人ではないのだね。私は神様と一緒にいるべきなのに、つまり、たましいを持っていない犬や猫とは違う、靈のある靈的存在だったのに、その神様を失い、神様を離れて靈が死んでしまっていた、希望のない絶望の地獄の子だったのだねということに気づくようになります。それが理由なのです。その他は理由ではありません。皆さんが教会に通いながら祈りがなかなかできない、何か問題があるときには徹夜しながら祈って、その問題がどうにかなった時に祈りが止まる、そういう祈りしかできないのは、この理由が整理されていないからです。なので、イエス様を信じない理由などは宇宙に存在しません。どのような理屈であっても、自分の根本が何か見えてきたときに、はっと驚いて、靈が死んでしまった、つまり、神様を離れて神を失つただけではなくて、目に見えない悪魔サタンが主人となり、結果、罪とのろいの運命に永遠に捕らわれることになったものが私なのです。だから教会に30年通っていても、このことが聞こえない、これが私のことなどと気づかない場合は、その状態は30年通っていてもずっと死んだままの状態です。いくら聖書を暗記していても、とりあえずイエス様と自分との関係が正しく始まらないのです。イエス様が招待しているのに、それに素直にアーメンと応じていないことなのです。20年通っていても。だから、別のものがテーマなのです。いつもキリストの他に頭の中に入ってるものがあまりにも多いのです。キリスト以外のすべてのものが全部抜けていくように、根本が死んでしまった状態なので、それは何をどうしても解決できないのです。だから絶望なのです。最初から生まれながら神の御怒りを受けるべき子として生まれるので。根本の靈が死んだ、悪魔サタンがそのたましいを捕らえているということは、そこからすべての精神、心、考えが生まれるようになるので、死んだ靈から考え、心、思い、感情などが全部生まれるわけです。そこが根本なので、言葉をえますと、靈が死んだ状態では、悪魔サタンが惡靈を通して人間の考え、人間の心を捕らえて操ることになります。私はそういう人間だったわけです。だから神は見えないし、絶対、神様が

見えない方向にしか行くことができないです。良いことを考へても悪いことを考へても、それは私たちの基準で良い悪い、正しい正しくないだけであって、全部が悪魔に捕らわれて、神が見えない方向に行くしかない考え方、そういうシステムになってしまいました。自分しかわからない、神が見えない、全部、自分が基準。自分の考え方、自分の好み、自分が好きなこと、自分が嫌いなこと、自分がなりたいこと、それが全部基準なのです。神は1ミリも入れないので。なぜそれが悪いのでしょうか。私たちは当たり前に自分のために生きているのではないでしょうか。それのどこが悪いのでしょうか。それ自体が悪いか良いかではなくて、靈が死んだ結果なのです。それが神が見えなくて、自分中心になって、結果として何がどうであれ神は見えない、神様を見る方向にはいけないのです。考えを変えればいいか。それができないように悪靈に捕らわれているのです。だれがでしょうか。すべての人が。良いことを考へれば、それは良いこと。変な犯罪のこと考へれば、あるいは依存症や性的ななんとか考へれば、悪靈の考え方。普通に親を敬うということは良い考え方、というように思うでしょう。生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれ、考へ、想い、心自体が、神がご覧になったときには全部が悪なのです。なぜ悪なのかというと、神様を見られない方向に行くことしかできないのです。悪魔に操られて。皆さんが精神的ないろいろな辛い経験をしたのでしょうか。家庭内に何か辛い経験があったでしょうか。人間関係において、事業を失敗して、体が壊れて、どういう経験があったでしょうか。それが単にだれかが悪いから、良いからではなくて、生まれながらそうならざるを得ない考え方を持って生まれたのです。いつも神様と反対の方向に行くことしかできない、そういうスピリットをもってずっと生きてきたのです。目に見えること、肉的なことしかわからない、靈的なことは全くわからないように。だから、神様とは反対の方向に行くしかありません。お金があれば幸せになるだろうと。そう思うことが悪い良いという以前に、そう思うことで神様とは反対の方向に行くようになります。神様と一緒になることが幸せなのに。そして、この目に見える世界、この世界がすべてだと思わせるわけです。永遠の世界があることを気づけないように。となると、この世界のどうのこうの、成功が良いか悪いかではなくて、基本的に考え方、永遠の世界とは関係ない方向に行くシステムになるのです。それが人間なのです。自分がそういうものだったんだね。だから、自然に宗教を求めるしかありません。宗教を求めるここと、宗教が悪いからではなくて、神を見られない方向にどんどん拍車をかけるというものが宗教なのです。偶像を挙む、神でない偽物の偽りの神を挙むことで、とにかく神様から反対の方向にいくしかないように。シャーマニズムなどに従うことで、悪靈と交わることで、神のみことばなどとは関係ないとやる人、やらない人がいるわけではなくて、生まれた時から精神の構造そのものが悪魔サタンに操られることで暗い方向に行くしかないのです。空中の権威を持つ支配者、悪魔サタンが作り出した世の流れの方に。世の流れとは何でしょうか。神様と敵対して、神様と反対の方向にいく仕掛けというもののなのです。それに従うしかない精神なのです。結果、精神的に、肉体的に、人間関係において、家庭において、崩壊して壊れて空しい人生になり、最終的には死んで裁かれて地獄に行くだけではなくて、この靈的な流れは、子孫3代4代までずっと続くように運命の中を生きることになります。ただ病気がどうのこうの、自分が失敗したああだこうだではありません。そうならざるを得ないものを生まれた時から持ち合わせて生まれたわけです。ああ、なるほど。そうだったのか。今、精神的に悩んでいる人が、親の故に悩んでいる人が、ああ、実は親の問題、精神の問題ではなくて、自分の靈が死んだんだねということに気づけば治るのです。それに気づけないように悪靈は必死になってファクトに囚われるよう、正しく考えられないようにします。これに気づくのがイエス様を信じる理由と繋がるわけです。だから、靈が死んだというのがどれほど恐ろしいのかがわかっていないと、人を殺したときに一生、人殺しの負い目を背負って生きるでしょう。教会に通いながらも。その人は人殺しではありません。人殺しに自分が自分を止めよう、とどめようとしているのですが、人殺しどころではなくて、100億倍悪な靈が死んだ地獄の子、悪魔の子なのです。なぜそれに気づこうとしないのか。人殺しというお面をかぶって嘘をついているのではないでしょうか。偽りの父に捕らわれて。皆さんにどういう問題があり、皆さん自分

自身のことをどういうふうにけなしていらっしゃるのでしょうか。それどころではありません。だから、それがイエス様を信じる理由になるということは、イエス様が十字架にかけられた時に、みなが逃げていくのと同じように逃げていくようになります。イエス様の十字架は、いま申し上げました、私たちが靈が死んだ、希望のない絶望の人間だうことのメッセージではないでしょうか。どこまで私たちが悪いものなのかというと、ローマの兵士がイエス様を槍をもって刺しました。ユダヤ人は、殺しなさい、殺しなさいと叫びました。一緒に、そのユダヤ人よりはるかにダメな異邦人だった私たち、つまり私がどれほど悪いかというと、自分は罪のない神の御子キリストを刺した者なのです。それが私なのです。そうでなければ、イエス様が十字架で死ぬ理由がありません。自分はそんなに悪いことをしていないのでそこまで…と思うかもしれません。だから信仰が成長しないのです。信仰のカラーが変わらないのです。礼拝はすべてなのです。礼拝を通して神様が皆さんに何をおっしゃっているのか、それを掴まないといけません。それで神様は最初から女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み碎くと。他には私たちに希望になることは宇宙に存在しません。結婚しても、畑を買っても、牛を買っても、常識がどうのこうの、科学がああだこうだ、一切希望とは無縁なものです。本当のことがわかれれば。だから神様は、女の子孫、キリスト、罪のない神の御子が、悪魔サタンの頭を踏み碎いて、身代わりとして犠牲になることの他に方法もないし、希望も道もないことを最初からおっしゃり約束されました。そこにのみ希望があるわけです。

2) Only キリスト、絶対キリスト

だから、本当のことがわかった人は、どんなことがあれ、何をどういう風に学習したのか関係なく、Only キリスト、絶対キリストにならざるを得ません。

3) イエスはそのキリスト

そして、十字架にかけられて復活なさって、今も天に昇られて、私たちとともにおられるそのイエス様こそキリストなのです。だから、イエス様を信じるのです。やれることが何もないし、イエス様を信じるわけです。受け入れるわけです。イエス様を信じない理由など存在しないし、信じるさまざまな理由なども存在しません。一つの理由しかありません。時代がどう違っても、国や民族、生活の程度、レベルの程度がみんなバラバラ違うでしょうけれども、イエス様を信じる理由は一つしかありません。これに正しくまとまって整理されないといけません。

結論です。なので、今日のメッセージを聞いて、いつも聞いてるメッセージ、いつもの礼拝と思わないで、礼拝は集中しないといけません。宇宙にイエス様を信じない理由など存在しないということを心に刻みましょう。これからもサタンは皆さんを攻撃します。信じない理由がいっぱいあるかのように。牧師が変なことをやりました。牧師と神様との関係であって、それが皆さんのがイエス様を信じない理由にはなりません。勘違いしないように。なにかやるつもりではありますけれども、例えばの話です。

それから大切なのは、イエス様を信じる多くの理由は間違いだということを素直に認めて、自分がいまイエス様を信じる理由は何なのかということを吟味しましょう。なぜイエス様を信じるのか。先ほど申し上げましたいろいろな理由がある中の一つとかなのか。それを悔い改めて、改めましょう…それは理由ではありません。その理由は全部消されないといけません。それで、イエス様を信じる理由を何がともあれ一つに絞りましょう。Only 絶対キリストを告白して、この信仰告白を搖るがせるいかなる理由も存在しない、存在することなどありえないと言宣言しましょう。畑を買いましたか。結婚しましたか。生活が忙しいのでしょうか。お金がありません。今はもう疲れています。理由になるものは一つもありません。騙されないように。逆に、だからこそイエス様を信じな

いといけません。そういう風に宣言するときに、皆さんも知らないうちに、皆さんを取り囲んでいた目に見えない暗闇の力が碎かれることになります。それをぜひ体験するように。不思議だなと思うくらい。自分が内側から変わり、周囲も変わり、見る世界も変わるようにになります。今は暗闇に覆われていて目をくらませているから、クリスチャンなのに見るもののが未信者と全く同じなのです。それが碎かれるように。いつでしょうか。イエス様を信じる理由は一つしかないんだ。絶対的な理由なのです。それを体験したときに、皆さんは迷うことなく、戸惑うことなく、躊躇せずに、これからはイエス様を信じている自分に、自分の内側に御座の祝福が豊かに現れて、御座のやぐらが建つことを大胆に祈ることができるし、祈りましょう。それが私たちがやるべきことなのに、まずイエス様を信じる理由が整理されていないので、いくら777と聞いていても、自分のものとして期待を持って信じて祈ることがなかなかできないのです。私たちはそこに立たないといけません。なのに、その前に邪魔が多いのです。イエス様を信じる理由は何でしょうか。整理しましょう。全部整理して、素直に整理して、全部捨てましょう。一つだけです。信じないといけない理由。それで、依存症予防学校ではいつも言われているように、理由が変わらないと、自分が信じたいイエスを信じるのです。それは本物のイエスではありません。だからいつも悪霊にやられるのです。私たちが信じるべきイエス様は、信じないといけないイエス様を信じるべきなのです。信じたいイエス様ではなくて、自分の願いをかなえてもらうためのイエス様ではなくて。病気が治りました。それで靈が死んだままであれば、何がラッキーで何が幸せなのでしょうか。わかっていないから、そういったものに振り回されて、エレミヤ、バプテスマのヨハネ、エリヤのような、そういうカラーになってしまうのです。イエス様を信じる信仰の色を一つの色に、十字架の色に正しく整理して、本当に悪魔が恐れるクリスチャンとして整えられることを祈ります。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。無知で、やることなすこと、考えることすべてが神様に敵対し、反対の方向に行くしかない、そのような滅びの私たちを、神様が憐みをもって、恵みによって、無条件の愛をもって救い出してください、イエス様を信じる理由を解き明かしてください、ありがとうございます。今までどういうきっかけがあろうが、イエス様を信じるさまざまな理由が私の内側から消されて、一つの理由だけが残り、それで現場を見て、人々を見て、彼らがイエス様を信じるべき理由をお明かしできる、そのような勝利の人生を歩めるようにひとりひとりを祝福して整えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。